

高付加価値印刷物を追求へ

渡辺美術印刷

「Jプリント」で具現化

8月に5×5色両面機導入

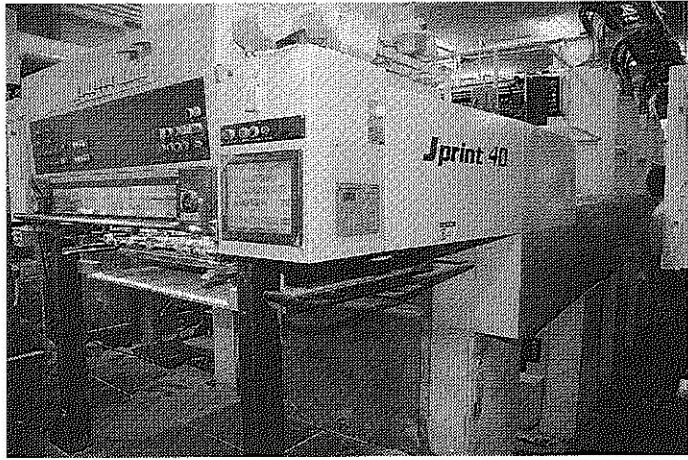
「アキヤマインターナショナルのJprintを入れたのが当社にとって大きな転機となった」と語るのが、渡辺美術印刷(埼玉県さいたま市桜区)の関根康社長だ。同社は二〇〇二年に一台目の菊全判四×四色両面機「Jprint4p440」を導入、続いて二〇〇五年に同型機をもう一台入れている。さらに今年八月には五×五色両面機「Jprint5p540」を導入する。こうした設備投資で、同社のビジョンである「高品質で価値のある物を追求していく」をさらに具現化していく。

同社の創業は昭和二十五(一九五〇)年。三十年以上も前から四色機を使ってカラー印刷に取り組む、その印刷品質には定評がある。クライアントの九〇%が大手印刷会社であり、それも品質の厳しい印刷物ほど依頼される。それだけクライアントからの信頼が高いということだ。現在社員数は三五人程度。設備では、現在、Jprint二台に加え、菊全四色機、五色機を各一台保有し、昨年、ケミカルレスプロセスを使うアクアファ社製菊全サーマルCTPも導入している。また、クライアントとのデータ受け渡しに

データ配信サーバを用意し、的確にデジタル化への対応も万全である。こうした同社の流れの原点が、二〇〇二年の「Jprint」導入だったという。「印刷機の更新時期でもあったが、その頃から印刷単価が厳しくなりつつあった。今までと同じことをしてはならないと感じていた。その時期にJprintを提案された」と関根社長は言う。最初は悩んだようだが、同じくJprintを導入している印刷会社を見学し、その高い印刷品質を見て、「わが社に絶対必要な印刷機だ」と導入を決めた。「アキヤマは両面印刷機のバイオニア

であるし、Jprintにはオペレーターのチャレンジ精神をくすぐる魅力があった」と同社の関根三郎取締役工場長はJprintを見た時の印象を話す。一台目のJprintが搬入され、試運転から本稼動に入るまでは短かった。その間の試運転時に行った仕事は、品質要求度の高いものだったにも関わらず、完璧な印刷物に仕上がったという。これは印刷機自体の性能に加え、関根工場長など社員たちが寝食を忘れるくらいにJprintに張り付き、機械の慣熟に取り組んだからである。今では、アキヤマインターナショナルの見学工場として協

力するほど、二台のJprintで高品質な印刷物を提供している。「良いものを提供するのがわれわれの仕事。印刷物の要求度に対して、いかに近づけるか、それに当社は取り組んでいる。Jprintは精度が抜群で、名機の一つといえる。この印刷機に出会う注ぎける印刷物のバリエーションを増やすのが目的だ。このように、時を得た設備投資を行い、デジタル化、高品質を含めた印刷の高付加価値化を推進する同社は、環境への対応も積極的だ。E3PA(環境保護印刷推進協議会)のクリオネマークでは、「ゴールドプラス」を取得しており、現在はISO14001の認証の取得に向けて推進中だ。「企業は環境対応に当然のことに対応しなければならぬ」といった関根社長の考えがあったこと、二〇〇二年に一台目の「Jprint」を導入する頃には、すでにデジタル化を基本ベースに印刷を行っており、インキのノンVOC化も終了している。現在は温し水のノンVOC化を準備している。こうした設備投資は大変な面もあるが、若い社員に希望を持ってもらえることが一番。新しい設備が入るたびに、社員は生き生きと仕事をし、同時に私も生き生きとしたい」と高品質で価値ある印刷を追求することとはもちろんだが、同社の関根社長は、価値ある設備を入れることによって社員をモチベーションアップを狙っている。

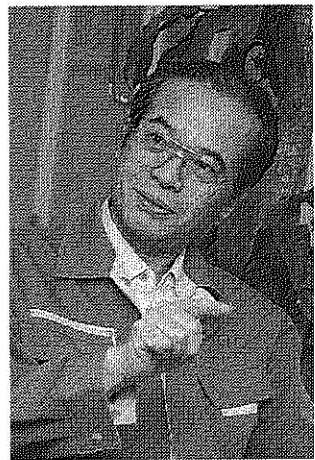


順調に稼動する「Jprint4p440」



関根社長

力するほど、二台のJprintで高品質な印刷物を提供している。「良いものを提供するのがわれわれの仕事。印刷物の要求度に対して、いかに近づけるか、それに当社は取り組んでいる。Jprintは精度が抜群で、名機の一つといえる。この印刷機に出会う注ぎける印刷物のバリエーションを増やすのが目的だ。このように、時を得た設備投資を行い、デジタル化、高品質を含めた印刷の高付加価値化を推進する同社は、環境への対応も積極的だ。E3PA(環境保護印刷推進協議会)のクリオネマークでは、「ゴールドプラス」を取得しており、現在はISO14001の認証の取得に向けて推進中だ。「企業は環境対応に当然のことに対応しなければならぬ」といった関根社長の考えがあったこと、二〇〇二年に一台目の「Jprint」を導入する頃には、すでにデジタル化を基本ベースに印刷を行っており、インキのノンVOC化も終了している。現在は温し水のノンVOC化を準備している。こうした設備投資は大変な面もあるが、若い社員に希望を持ってもらえることが一番。新しい設備が入るたびに、社員は生き生きと仕事をし、同時に私も生き生きとしたい」と高品質で価値ある印刷を追求することとはもちろんだが、同社の関根社長は、価値ある設備を入れることによって社員をモチベーションアップを狙っている。



関根取締役工場長

力するほど、二台のJprintで高品質な印刷物を提供している。「良いものを提供するのがわれわれの仕事。印刷物の要求度に対して、いかに近づけるか、それに当社は取り組んでいる。Jprintは精度が抜群で、名機の一つといえる。この印刷機に出会う注ぎける印刷物のバリエーションを増やすのが目的だ。このように、時を得た設備投資を行い、デジタル化、高品質を含めた印刷の高付加価値化を推進する同社は、環境への対応も積極的だ。E3PA(環境保護印刷推進協議会)のクリオネマークでは、「ゴールドプラス」を取得しており、現在はISO14001の認証の取得に向けて推進中だ。「企業は環境対応に当然のことに対応しなければならぬ」といった関根社長の考えがあったこと、二〇〇二年に一台目の「Jprint」を導入する頃には、すでにデジタル化を基本ベースに印刷を行っており、インキのノンVOC化も終了している。現在は温し水のノンVOC化を準備している。こうした設備投資は大変な面もあるが、若い社員に希望を持ってもらえることが一番。新しい設備が入るたびに、社員は生き生きと仕事をし、同時に私も生き生きとしたい」と高品質で価値ある印刷を追求することとはもちろんだが、同社の関根社長は、価値ある設備を入れることによって社員をモチベーションアップを狙っている。

力するほど、二台のJprintで高品質な印刷物を提供している。「良いものを提供するのがわれわれの仕事。印刷物の要求度に対して、いかに近づけるか、それに当社は取り組んでいる。Jprintは精度が抜群で、名機の一つといえる。この印刷機に出会う注ぎける印刷物のバリエーションを増やすのが目的だ。このように、時を得た設備投資を行い、デジタル化、高品質を含めた印刷の高付加価値化を推進する同社は、環境への対応も積極的だ。E3PA(環境保護印刷推進協議会)のクリオネマークでは、「ゴールドプラス」を取得しており、現在はISO14001の認証の取得に向けて推進中だ。「企業は環境対応に当然のことに対応しなければならぬ」といった関根社長の考えがあったこと、二〇〇二年に一台目の「Jprint」を導入する頃には、すでにデジタル化を基本ベースに印刷を行っており、インキのノンVOC化も終了している。現在は温し水のノンVOC化を準備している。こうした設備投資は大変な面もあるが、若い社員に希望を持ってもらえることが一番。新しい設備が入るたびに、社員は生き生きと仕事をし、同時に私も生き生きとしたい」と高品質で価値ある印刷を追求することとはもちろんだが、同社の関根社長は、価値ある設備を入れることによって社員をモチベーションアップを狙っている。